

# 特別支援学校における自己効力感を高める 現場実習のあり方についての考察

## 1 研究目的

就労意欲涵養のための前段階として自己効力感の獲得に着目した。特別支援学校高等部における進路指導の大きな柱となっている現場実習において、その前後で生徒の自己効力感がどのように変化するかを検証し、その結果から、自己効力感獲得のためのより効果的な現場実習のあり方について考察する。

## 2 研究方法

研究対象3名の生徒に対して、それぞれ現場実習を実施する前後2週間にGSES（一般性セルフ・エフィカシー）test質問用紙と筆者が作成した自己理解ワークシートの2種類の評価シートを実施した。評価の結果を記録・分析することで、実習前後の自己効力感について、質的・量的な変化を検証し、より効果的な現場実習のあり方について考察した。

## 3 結果

評価シートの結果は下記表の通り。GSESについて見てみると、3人中2人で向上が確認された。また、自己理解シートの記述の変化を見てみると、生徒AとCにおいて、実習前は「苦手なこと」の項目に合った記述が実習後には「苦手なこと」から消えたり、逆に「得意なこと」の方に記述されていることが確認できた。

生徒	評価項目	実習前	実習後
A	GSES	5	8
	自己理解ワークシート	得意なこと（はなし・うんどういち）、苦手なこと（こまかいさぎょう） やってみたい仕事（がっこうせんせい）	得意なこと（おはなしすること・けいさぎょう・ていぶはり）、苦手なこと（しつもん・あいさつすること）、やってみたい仕事（こうとうぶのせんせい・おんがくしてみたい）
B	GSES	11	14
	自己理解ワークシート	得意なこと（折り紙・手芸・漢字）苦手なこと（ドッジボール・数学・人の話を聞く）、やってみたい仕事（手芸・袋詰め・軽作業）	得意なこと（折り紙・手芸・漢字）、苦手なこと（ランニング・ドッジボール・数学・人の話を聞く）、やってみたい仕事（手芸・箱作り・軽作業）
C	GSES	7	7
	自己理解ワークシート	得意なこと（ダンス・えがお・やさしい）、苦手なこと（からだをうごかすこと・じてんしゃ・ことばづかい）、やってみたい仕事（ふくろつめ・パソコン）	得意なこと（やさしい・えがお・かっこいい）、苦手なこと（からだをうごかすこと・しつもん・しけん）、やってみたい仕事（ふくろつめ・パソコン）

表1 実習前後の自己効力感の量的・質的变化

## 4 考察

2種類の評価シートの結果の検証と、各実習先での実習内容や様子の比較を基に考察した。自己効力感を向上させることができた生徒の実習では、実習期間内にある程度の成果（成長）を生徒自身が感じることができるようカリキュラムを実施することができ、自己効力感の4つの情報源の1つである「遂行行動の達成」が実現されていた。また、実習先のスタッフが生徒に付き添い「大丈夫」や「うまくできている」などといった肯定的な言葉掛けが継続して行われることで、「言語的説得」が行われ生徒の自己効力感獲得に寄与したものと思われる。これらのことから、自己効力感を獲得するための効果的な実習を実現するためには、上記の「遂行行動の達成」と「言語的説得」が実習中に実現できるよう、事前に実習先と生徒の情報共有や実習内容の打ち合わせを密に行うことが重要であると考えられる。今後の課題として、知的障害のある生徒は質問内容の理解が難しいため、質問紙等の検査を行うに当たっては、日頃の本人の言動や考えをある程度理解している支援者が、観察した様子などから検査の質問用紙を記入する方が精度の高い結果が得られることも考えられる。